



学校だより

〒952-1311 新潟県佐渡市八幡 2002 番地 Tel 0259-57-2602 Fax 0259-57-2604
http://yahata-es.sado.ed.jp/ (HPにカラー版の学校だよりを掲載)

コミュニティ・スクール文化祭

校長 山崎 勝之

分館による八幡地区文化祭と同時開催という点が、コミュニティ・スクール八幡小学校の文化祭の最も大きな特徴です。その前提に基づき、コミュニティ・スクール元年の趣旨を前面に出した文化祭にしたいと考え、以下の3点を工夫しました。

① 佐和田地区公民館活動につなげるニュースポーツ大会

スピードラダーゲッターとポッチャの2種目を縦割り班対抗で競いました。その成果として、11月25日(日)のハッピーデイさわた・ジュニアニュースポーツフェスティバルに対して、27名もの子どもたちが参加申込みをしてくれました。

② 佐渡・八幡の魅力を発信する学習発表会・作品展

学習発表会は佐渡・八幡の自慢、素敵なところを保護者・地域の皆様に発信することを目指しました。八幡宮と雪の高浜の魅力を硬筆書写にしました。チューリップ畑、八幡の野菜、八幡芋、鼓笛隊演奏、トキと暮らす郷認証米の田植え、八幡の町並みなど絵画にして、佐渡・八幡の魅力を表現しました。

③ 八幡小卒業生によるブラスバンド演奏

卒業生である佐和田中1年生4名が、バザー食堂としてたくさんのお客様が集まったランチルームで、楽器の生演奏をしてくれました。卒業後半年とは思えない、立派な演奏でした。

学習発表会の開会式では、美術賞の表彰を行いました。低学年の部は大川さん、中学年の部は高橋さん、高学年の部は近藤さんが美術賞に選ばれました。おめでとうございます。村岡様から寄贈された「獅子の楯」を授与しました。村岡様、ありがとうございました。

コミュニティ・スクール文化祭を盛り上げるために、佐和田中の名古屋校長先生をはじめとした多くのご来賓、保護者・地域の皆様からご来校いただきました。心より御礼を申し上げます。



ランチルームで演奏する4名の卒業生



伝統の美術賞に輝いた3名の子どもたち

各種コンクールでの入賞者の紹介

第14回市展ジュニア部門

奨励賞 2年 若林さん 絵画「ひよこのおさんぽ」
奨励賞 3年 本間さん 絵画「なかよしのいるかとかめ」
奨励賞 2年 鶴間さん 硬筆「町たんけんで雪の高浜で…」

歯科保健図画・ポスター・標語入賞者

図画 2年 石塚さん 3年 高木さん
3年 矢田さん 3年 山本さん
標語 6年 梶田さん 6年 近藤さん

MOA美術館佐渡展作品展

新潟県佐渡地域振興局長賞 2年 齋藤さん 題名「さかなのおにごっこ」

銅賞 3年 吉田さん 題名「スイミー」
入選 2年 本間さん 題名「うみの中」
入選 3年 本間さん 題名「深海の魚たち」

アミューズメント佐渡 11月10日～11日
両津小学校 11月13日～20日
佐渡総合病院 1月11日～2月28日

地域の皆様とともに盛り上がった学習発表会



1年「くじらぐも」
「くじらぐも」に乗って、空から八幡の素敵な場所を探しました。チューリップマンも出演しました。



2年「大好き！八幡」
町探検で発見したこと、地域の方から教えていただいたことを、ヒーローや妖精に扮して伝えました。



3年「八幡ツアーズ」
ポッカーズ、八幡芋、八幡人形などの八幡のおすすめを、バスツアーに参加した形式で紹介しました。



4年「ダーツの旅～八幡のココがすごい～」
八幡の村人に八幡の魅力を教えてもらう企画。砂を防ぐ松林をつくった太郎右衛門さんの業績を紹介しました。



5年「トキの恩返し」
「鶴の恩返し」をベースに、認証米生き物調査の成果を踏まえ、傷ついたトキに餌を与えて救いました。



6年「八幡報道 STATION～世界文化遺産への道～」
報道番組のスタイルで、金の道での運搬体験をもとに佐渡金銀山の歴史的、文化的なすばらしさを紹介しました。

八幡っ子米の販売 スピードラダーゲッター パラスポーツ、ポッチャ



トキと暮らす郷認証米と同じ栽培法



スポーツ推進委員協議会会長の風間喜一郎様からもお越しいただきました



チューリップ大作戦と芋煮会・八幡キャリア教育フォーラム 11月11日(日)

自分と八幡の未来を考える日

- 9：15～ チューリップ大作戦(親子参加)
- 11：00～ 八幡いも煮会(芋煮、おにぎり)
- 13：00～ 八幡キャリア教育フォーラム
- 15：00 下校

チューリップ大作戦と芋煮会は、親子での参加となります。スコップ、軍手、水筒、雨具など持ち物や日程は、回覧された八幡・銀杏の会のチラシに詳しく紹介されております。午後の八幡キャリア教育フォーラムでは、学校運営協議会のメンバーでもある各団体の行事について、子どもの視点で感想や要望、協力できることを話し合います。